

平成27年度第3回平地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成28年1月15日(金曜)午前9時30分から11時00分まで
- 2 開催場所 南砺市平行政センター 第2会議室
- 3 出席委員 10名 表 久義 平本 和雄 坂本 勲 永森 常次 池田 實
長田 一政 上野 真希 水口 育子 吹上 都 折口 律子
- 4 欠席委員 3名 宮本 佳子 明瀬 吉央 上口 貴史
- 5 市側出席者 長澤市長政策室長 上口行革・施設再編課課長
石崎施設再編係長 平行政センター長 平行政センター次長

5 傍聴者 無

6 協議議題

① 公共施設再編計画(素案)について

7 会議経過

○開会

事務局(センター長)から開会の宣言を行う。

○会長あいさつ

永森会長あいさつ

○市長政策室長あいさつ

長澤室長あいさつ

○協議議題

永森会長が議長となり、順次議事を進める。

(議長) 議題1 公共施設再編計画(素案)について資料説明を求める。

(長澤室長) 挨拶を兼ねて資料1とダイジェスト版の説明を行う。

(上口課長) 資料3で施設ごとの詳細説明を行う。

(議長) 質疑を求める。

(委員) 大変分かり易い説明でした。

説明の中であったが施設管理は担当課が一本化されるということか。

(長澤室長) 改修などの予算要求は担当課同席の上で行革・施設管理課が予算要求するということとなります。

(委員) そうなると施設管理課は相当の人員が集まるということか。

(長澤室長) そうなります。

(委員) 一施設で耐用年数にばらつきがあるのはなぜか。

- (上口課長) 増築等があり構造がそれぞれ違っているケースがあるためです。
- (委員) 平郷土館は耐用年数を超過しているのか。
- (上口課長) 木造は24年です。木造の法定耐用年数は短いです。
- (委員) 3割減の場合はあり方を見直すということはどのような意味か。
- (長澤室長) 人口減少スピード以上に利用実績が低下するということは何らかの要因があるわけで5年毎の見直しにより施設のあり方を見直すという意味です。
例えば三つの施設で3割減となれば機能統合して2施設にできるのではないかという意味です。
- (委員) そもそも病院施設のあり方について記載が無いのはなぜか。
- (長澤室長) 現在、第2次病院改革プラン策定が準備されています。県の医療圏毎の病床数が示されることを待っている状況です。
- (委員) 本当に実現性があるのだろうかというのが正直です。
譲渡先がなければ解体ということではないか。
指定管理料は0円を目指すということは難しいのではないか。
- (長澤室長) 上平でも同様の意見がありました。譲渡不可であれば解体ということになります。解体自体は期限を定めていません。地元で譲渡できなければ全国公募もやむを得ないということです。
伝統産業支援は指定管理料と別途に算定して支援するべきだと考えます。
- (委員) 半減目標は達成できたのか。
- (長澤室長) 残念ながら半減には至らなかった。
- (委員) 譲渡できなければ解体とあるが難しいだろう。
- (長澤室長) 譲渡3とあるのは収益施設と判断しており民間譲渡を進めたい。
- (委員) 世界遺産を抱えている五箇山については伝統工芸も存続しており別途取り計らいを検討していただきたい。
- (委員) スキー場施設は体育施設として整備してきたと理解している。
- (長澤室長) スキー場については前期で譲渡としていたのを見直して中期にしている。

しかし譲渡3の施設については直ちに交渉を開始してゆく必要があることに変わりない。

(委員) 苦言を呈すると、これまでの南砺市の方針が二転三転している。これでは先行き不安で人材確保の目処が立たない。

応相談とか売却譲渡期限を延ばしますとかでは指定管理者は事業計画が成り立たない。活かさず殺さずではなく速やかに英断を下すべきではないでしょうか。

(委員) 五箇山には近年、外国観光客も増加している。定住方策も進めて残すものは残し、つぶすものは潰しというメリハリをつけてほしい。

(長澤室長) 従来は単に譲渡となっていたのを区分して譲渡2と譲渡3に区分した。特にスキー場と温泉施設は大変意見が拮抗した。ですから今後の5年間でメリハリをつけて存続と廃止を決めてゆきたい。

残念ながらこれまでの経験からして施設の存続＝地域の存続という図式にはならないことは明白だ。

議会での議決でこの「素案」が取り払われる。議会にも様々な意見があります。

利賀地区でも賛成云々ではないが理解はするという意見でした。

(委員) 地元と決裂すれば公募やむを得ないということですか。

(長澤室長) 5年間費やして交渉する訳です。ですから決裂直ちに公募にはならないと思います。

そもそも議会には9月に施設半減を議決いただいてそのすぐに6万㎡節減できませんでしたでは議会は梯子をはずされたみたいなものだという苦言も聴いております。

それも市民の意見だったと報告してゆきます。

(議長) ありがとうございます。
今後の進捗予定はどのように図ってゆくのか。

(長澤室長) 地域説明会が一巡したら「素案」を取り外しPBにかけたいと思います。

(委員) 井口の審議会で椿館について譲渡からあり方を見直ししたのはなぜか。

(長澤室長) 原種椿の重要性を鑑み見直しをしたものです。

(委員) 椿が大切なら和紙も大切ではないのか。

(長澤室長) 伝統工芸としての和紙は大切に決まっています。特産の伝承と施設存続がイコールになるわけではありません。

(議長) 当初お示した時間もまいりましたので、これで質疑を終了したいと思います。

(センター長) 閉会の宣言をする。